

所長の部屋



所長の健康アドバイス

賢い胃カメラ検査の受け方

[2019年6月]

今回は上部消化管内視鏡検査（通称、胃カメラ検査）についてご説明します。

まず、どんな時に検査を受けるかです。健診のバリウム検査で異常を指摘されるか、ピロリ菌が陽性の場合は検査を受けるべきです。また上腹部などに症状があるときは、医師と相談し検査を受けるか決めましょう。

次は受診する医療機関です。大腸カメラと同様、日本消化器内視鏡学会のホームページで指導施設や専門医を探して、そこに載っている医療機関や医師を受診するのが無難です。

そして実際の検査方法です。胃カメラ検査は現在、鼻から入れるか口から入れるかを選択できる医療機関が増えました。口からの場合はさらに、通常サイズ（直径9mm余りで、3色ボールペンの太さ）か、鼻からのカメラと同じ細いサイズ（直径5mm余りで、色鉛筆の太さ）かを選択できる場合が多いです。従って大きな病院などでは、①鼻から細いカメラ、②口から細いカメラ、③口から通常サイズのカメラ、の3通りから選べることになります。

①の鼻からのカメラが挿入可能であれば、これが一番楽でしょう。口からに比べると、のどの通過が楽です。しかし小柄な女性などで鼻の穴が細い場合や、アレルギー性鼻炎などがある場合は、鼻を通過できないことがあります。無理に通過すると痛い上に、鼻血が出ることもあります。

誰でも確実に受けられるのは、②の口から細いカメラを入れる方法で、私は初めての胃カメラ検査にはこれをお勧めします。検査に慣れた患者さんには③の通常サイズの方が、②よりも画像が鮮明で病変を見つけやすい可能性があります。実際には画質も②とそれ程変わりません。

医療機関によっては、麻酔で眠った状態での検査も可能ですが、検査後一日中眠く、当日は車の運転は出来ません。出来れば眠り薬は使わず、「口から細いカメラ」で検査をお願いしてはいかがでしょうか。

乙訓保健所長 時田 和彦

山城南保健所ホームページ

<http://www.pref.kyoto.jp/yamashiro/ho-minami/>

「ひとこと健康アドバイス」バックナンバー

H27.11～H28.6 健康寿命を延ばす（メタボリック症候群についての話）

H28.7～H29.3 がんを防ぐ（食道癌、胃癌、大腸癌の話）

H29.4～H29.6 医者のお話（病院救急室の話）

H29.7～H30.5 健康診断結果への対応（検診で異常値が出たときの話）